

羽田発着枠政策コンテストに係る今後の取組について

新たな目標値

	羽田＝山形路線(JAL 1→2便) 取組前(旅客数 30,828人、席利用率 56.3%)※1					羽田＝鳥取路線(ANA 4→5便) 取組前(旅客数 315,153人、座席利用率 64.2%)				羽田＝石見路線(ANA 1→2便) 取組前(旅客数 70,934人、座席利用率 58.2%)			
	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度 ※2	32年度 (増便後5年)	27年度 (実績)	28年度	29年度	32年度 (増便後5年)	27年度 (実績)	28年度	29年度	32年度 (増便後5年)
旅客数 ※3	88,061	87,000	87,500	88,000	100,000	348,726	360,000	370,000	400,000	115,784	127,000	134,000	140,000
座席 利用率	79.8%	78.4%	78.9%	79.3%	72.1% ※4	58.6%	61.0%	62.0%	67.0%	52.2%	52.3%	55.3%	57.8%

※1 25年度実績。羽田＝鳥取路線、羽田＝石見路線についても同じ。

※2 羽田＝山形路線のみ3年間延長(他路線は2年間延長)。

※3 羽田＝山形路線のみ無償搭乗者も含んだ数値(他路線は有償搭乗者のみの数値)。座席利用率についても同じ。

※4 機材大型化後(76→95人)の値。

現状の課題と今後の方向性

羽田＝山形路線	羽田＝鳥取路線	羽田＝石見路線
<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の増加に伴う混雑による利用者離れを防止する ○ 運賃助成に頼らず路線の安定した黒字化を図る ○ 日帰り需要のみならず、宿泊需要の創出を図る ○ 各施策の効果を分析し、効率的な事業の展開を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口規模が大きい首都圏からの更なる誘客強化を図る ○ 訪日外国人の増加を受け、外国人旅行客の取込みを図る ○ 移住促進等の県の施策との連携を推進する ○ 県境を越えて但馬地域からの利用者の取込みを図る ○ 空港の持続的な賑わいの創出のため、空港施設の一体化等により「空の駅」化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベント等の外部要因によらない安定した需要の確保 ○ 冬期ならではの旅行商品造成で閑散期の利用者の落込みを防止する ○ 圏域人口に限界があるため、地元発のビジネス利用の更なる拡大を図る ○ 訪日外国人の増加を受け、外国人旅行客の取込みを図る ○ 空港及び圏域の知名度の向上を図る